



株式会社 横河ブリッジホールディングス

証券コード:5911

株 主 通 信

2023年11月

YBHD NEWS No. 66

株主の皆様へ

To Our Shareholders

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
ここに株主通信「YBHD NEWS」第66号をお届けいたします。

当第2四半期累計期間は、豊富な手持ち工事の進捗により、売上高は初めて800億円を超えることができました。営業利益はエンジニアリング関連事業での損益改善により想定を上回り、当期純利益は投資有価証券売却益の計上により過去最高となりました。受注は前年同期に比べて減少しましたが、橋梁事業、土木関連事業、建築・機械鉄構事業については下半期に多くの案件が控えているため、概ね想定どおりという状況であります。

さて、今年度は、第6次中期経営計画の2年目となります。

橋梁事業につきましては、発注量は前期並みと想定しておりますが、上半期は大型案件の入札が少なく、受注高は前年同期を下回りました。下半期に発注される大型案件の受注に注力し、トップシェアの維持と目標の達成を目指してまいります。

システム建築事業につきましては、当社のメイン市場である中小規模の工場や倉庫において、建設コストの上昇等により受注が伸び悩んでおりますが、引合いは堅調に推移しており、この下半期での回復を見込んでおります。引き続き、店舗や事務所への取り組み拡大や生産拠点の国内回帰に伴う需要を取り込むことで、受注拡大に努めてまいります。

通期につきましては、売上高は、エンジニアリング関連事業や先端技術事業が伸び悩むものの、橋梁事業が順調に推移し、前期に比べ増収となる見通しです。損益に



つきましては、営業利益は、上半期のシステム建築事業の改善や下半期の橋梁事業の設計変更の獲得等により、また、当期純利益も、政策保有株式売却の進捗により、いずれも前期に比べ増益となる見通しです。

資本政策と株主還元につきましては、今年度も10億円の自己株式取得を行うとともに、2008年3月期から16年間減配せず、そのうち13回増配した実績を継続していくことを明確にするために累進配当を導入いたしました。今後もさらなる増配を検討してまいります。

当社グループは、持続的に成長できる企業グループに進化することを目指し、今後も良質で安全な社会インフラの整備等を通じて社会に貢献するため、一丸となって努力してまいりますので、引き続き倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2023年11月

連結財務ハイライト

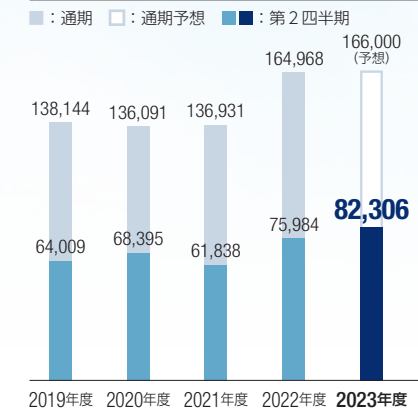
Financial Highlights

橋梁事業とエンジニアリング関連事業の手持ち工事が概ね順調に進捗し、第2四半期累計の売上高は過去最高を更新しました。また、システム建築事業を中心にエンジニアリング関連事業で損益の改善が進み、第2四半期累計の営業利益は高水準で推移しました。加えて投資有価証券の売却益等の計上により、第2四半期累計の親会社株主に帰属する四半期純利益は過去最高となりました。

通期の売上高につきましては、エンジニアリング関連事業や先端技術事業が伸び悩むものの、橋梁事業が順調に推移し、増収となる見通しです。損益につきましては、上半期のシステム建築事業の改善や下半期の橋梁事業の設計変更等により、前期から増益となる見通しです。

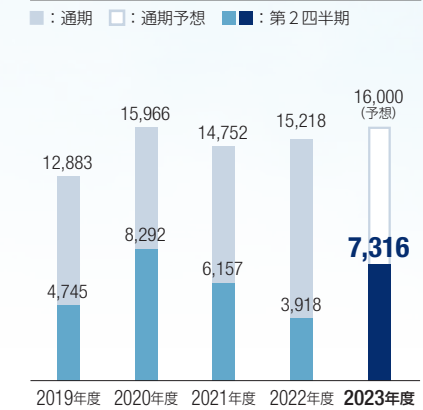
売上高

(単位:百万円)



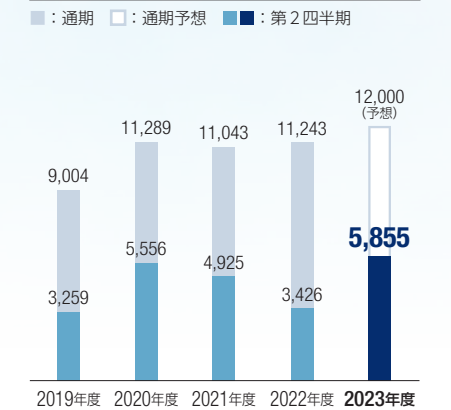
営業利益

(単位:百万円)



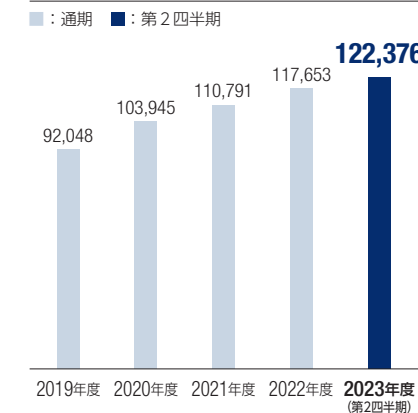
親会社株主に帰属する当期純利益

(単位:百万円)



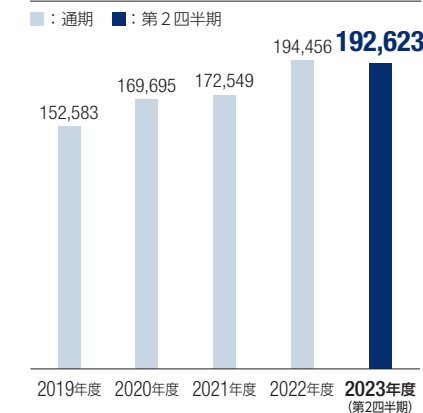
純資産

(単位:百万円)



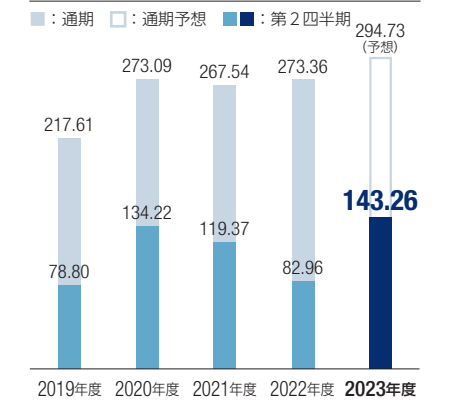
総資産

(単位:百万円)



1株当たり当期純利益

(単位:円)

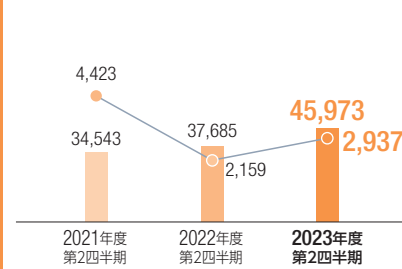


橋梁事業



売上高／営業利益

(単位：百万円)



売上高

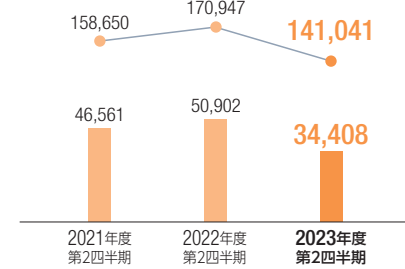
37,685百万円 → 45,973百万円

営業利益

2,159百万円 → 2,937百万円

受注高／受注残高

(単位：百万円)



受注高

50,902百万円 → 34,408百万円

受注残高

170,947百万円 → 141,041百万円

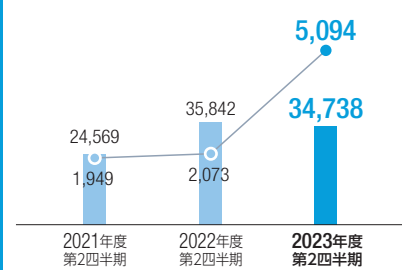
- 厳しい受注環境が続く中、当第2四半期(2023年7月1日～2023年9月30日)においても大型工事を受注することができ、概ね想定どおりに推移しましたが、当第2四半期累計期間(2023年4月1日～2023年9月30日)における受注高は、過去最高を更新した前年同期からの減少は避けられず、前年同期を下回りました。
- 売上高は459億7千万円(前年同期比22.0%増)となりました。豊富な手持ち工事が順調に推移した結果、営業利益は29億3千万円(同36.0%増)となりました。

エンジニアリング関連事業



売上高／営業利益

(単位：百万円)



売上高

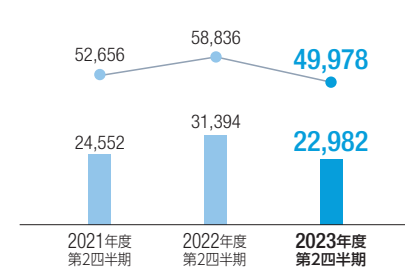
35,842百万円 → 34,738百万円

営業利益

2,073百万円 → 5,094百万円

受注高／受注残高

(単位：百万円)



受注高

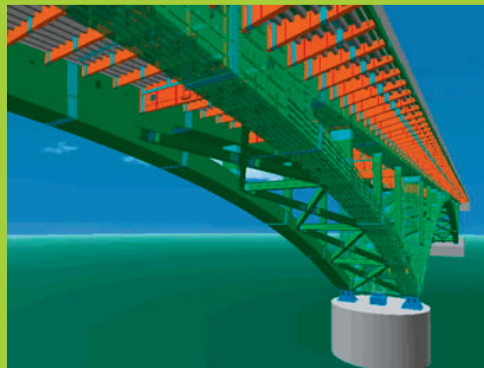
31,394百万円 → 22,982百万円

受注残高

58,836百万円 → 49,978百万円

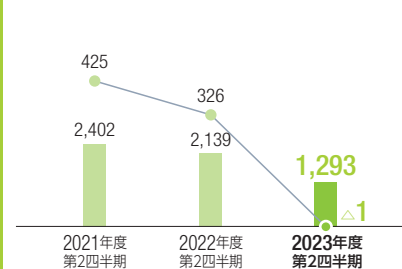
- 事業全体の受注高は229億8千万円(前年同期比26.8%減)となりました。システム建築事業につきましては、引合いは引き続き堅調に推移したものの、建設コスト上昇等による計画の延期や見直しが散見され、当第2四半期の受注は当第1四半期から横這いに止まりました。
- 売上高は過去2番目の347億3千万円(同3.1%減)となりました。営業利益はシステム建築事業における損益の改善が寄与し、過去最高の50億9千万円(同145.8%増)となりました。

先端技術事業



売上高／営業利益

(単位：百万円)



売上高

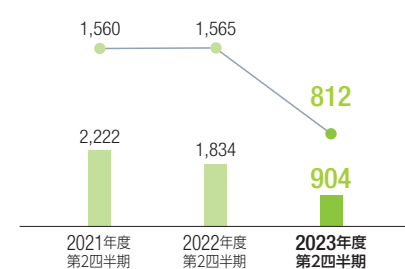
2,139百万円 → 1,293百万円

営業利益

326百万円 → △1百万円

受注高／受注残高

(単位：百万円)



受注高

1,834百万円 → 904百万円

受注残高

1,565百万円 → 812百万円

- 精密機器製造事業において厳しい需要環境が続く受注が減少しており、売上高は12億9千万円(前年同期比39.5%減)、営業損失は1百万円(前年同期は3億2千万円の利益)となりました。

インフラDX工事 親子見学会

— 徳島県 津田高架橋 YBC



高所作業車で架設現場へ



バーチャル工場見学画面



工場を探索中



VR空間にびっくり



Y.LEADを操作してみよう



(国土地理院地図を加工して作成)

株式会社横河ブリッジが四国地方整備局より受注している「令和3～5年度 横断道津田高架橋上部P3～P7工事」において、架設現場の見学とインフラDX技術の体験ができる見学会が開催されました。本工事は、整備が進められている徳島南部自動車道において、供用が開始されている津田高架橋のうち、4径間の幅員を広げる工事です。近隣地域の小中学生と保護者を現場に招き、橋梁架設現場の見学と合わせてDX(デジタルトランスフォーメーション)技術を地元の子供たちに体験してもらい、建設業やこれからの工事現場を支えるDXの魅力を伝えました。

見学会では、高所作業車の乗車体験や当社の橋梁製作工

YBHDグループでは、2023年よりDX人材育成専門研修を開始しています。経済産業省が定める「DX認定事業者」にも認定されました。

引き続きグループ全体のDXスキルのレベルアップに取り組み、働き方改革や生産性・品質向上の実現を目指していきます。



場・建設現場のバーチャルツアーなどを提供しました。その中でも、Y.LEAD(リード)と名付けた四足歩行ロボット(ロボット)の操作体験は大きな関心を集めました。現在、Y.LEADは工場内での安全パトロールや作業環境測定などの高度化に向けて試行中です。将来的には工場内だけでなく、現場での安全巡視や計測のサポートを行い、現場の省人化に貢献することを目指しています。

現場見学会を通じて、近隣の方々が本工事に対して高い関心を寄せていることを改めて実感しました。2023年度末の竣工に向け、安全第一で着実に進めてまいります。

「富士河口湖町 音楽のまちづくり事業」の応援

富士山河口湖ピアノフェスティバル2023



Tsujii's photo:Tomoko Hidaki

2023年9月、世界で活躍する辻井伸行さんをピアニスト・イン・レジデンスに迎えた「富士山河口湖ピアノフェスティバル2023」が山梨県富士河口湖町で開催されました。本フェスティバルで使用する河口湖ステラシアターの開閉式屋根を株式会社横河システム建築が施工したご縁で、企業版ふるさと納税というかたちで株式会社横河ブリッジホールディングスと株式会社横河システム建築が支援を行いました。

辻井さんをはじめ、著名な演奏家の方々の競演が4日間にわたり行われました。河口湖ステラシアターや河口湖円形



河口湖ステラシアター屋根開放時

ホールでの公演のみならず、辻井さんによる地元小学校での音楽教室や、芝生の上でのピクニック・コンサートも開催され、多くの方が音を楽しんだフェスティバルとなりました。

1995年に野外音楽堂として完成した河口湖ステラシアターは、2007年に株式会社横河システム建築が開閉式屋根を施工し、全天候型シアターとなりました。

晴天時は屋根が開放され、富士山の雄大な景色が眼前に広がり、気候や季節の変化を感じながら文化を味わうことができます。また、雨天時は屋根を閉じて屋内会場として使用できます。

辻井さんは、河口湖ステラシアターで演奏することについて「自然の音や風が入ってくるので、普通のホールでの演奏とはまた違った感じで、自然の空気を感じながら気持ちよく演奏ができます。」とお話されていました。

横河ブリッジホールディングスグループの事業を通して、富士山河口湖ピアノフェスティバルはもちろん、さまざまな地域貢献の取り組みを積極的に行ってまいります。

横河システム建築公式サイトに河口湖ステラシアターの詳細を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

<https://www.yokogawa-yma.jp/works/yma147/>



首都高速1号羽田線 高速大師橋

大規模架け替え工事を実施 YBC

1 新設橋の組み立て



2径間を地上で組み立て

架設場所に向けて曳航

台船リフトアップ工法で架設

1径間はトラバークレーンで架設



新設橋組み立て完了

(写真提供:首都高速道路株式会社、撮影:株式会社共映)



(国土地理院地図を加工して作成)

工事概要

首都高速道路株式会社が行っている首都高リニューアルプロジェクトの1つである、首都高速1号羽田線の高速大師橋架け替え工事を実施いたしました。本工事は、異工種建設工事共同企業体(大成建設株式会社・東洋建設株式会社・株式会社IHインフラシステム・株式会社横河ブリッジ)の施工体制です。

高速大師橋は1日8万台もの交通量を支え、東京都と神奈川県をつなぐ大動脈の役割を果たしています。1968年の開通から50年以上が経過し、これまでに1,200カ所以上のき裂が確認されており、構造物の長期的な安全性確保の観点から、多摩川を渡河する地点に架かる3径間連続鋼床版箱桁橋の架け替えを行いました。

工事の特徴

新設橋は、3径間のうち2径間は地上で組み立てたものを大型台船に搭載して現地まで曳航し、台船リフトアップ工法により架設いたしました。河川幅の関係で台船架設ができない残りの1径間は、トラバークレーンによる張出し架設を行いました。

また、東京都側に接岸する桁の1ブロックは事前組立が困難であったため、一括横取り後に油圧クレーンにて架設を行いました。

2 一括横取り工法による架け替え



既設橋横取り前(左:既設橋 右:新設橋)

橋梁の架け替えにおいては、橋桁をスライドさせる「一括横取り工法」を採用いたしました。既設橋を多摩川上流側に横取りし、下流側で事前に組み立てた橋長292m、重さ約4,500tの新設橋を、既設橋があった場所へ横取りするというものです。



既設橋横取り完了

この工法により、既設橋の移動と新設橋の架設を一挙に行うことが可能となり、2023年5月27日～6月10日にかけてのわずか2週間の通行止めが無事に架け替えが完了し開通させることができました。



新設橋横取り完了

今後の予定

今後は、既設橋の撤去・搬出や仮設備の解体、恒久足場の設置などを進め、無事故無災害での工事完了を目指してまいります。

(写真提供:首都高速道路株式会社、撮影:株式会社共映)

連結財務諸表

Financial Statements

四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前期末 2023年3月31日現在	当第2四半期 連結会計期末 2023年9月30日現在
資産の部		
流動資産	133,354	131,216
固定資産	61,101	61,407
有形固定資産	38,607	37,870
無形固定資産	2,454	2,700
投資その他の資産	20,040	20,835
資産合計	194,456	192,623
負債の部		
流動負債	50,660	42,080
固定負債	26,143	28,166
負債合計	76,803	70,247
純資産の部		
株主資本	110,491	113,807
資本金	9,435	9,435
資本剰余金	9,150	9,150
利益剰余金	94,371	98,375
自己株式	△ 2,465	△ 3,153
その他の包括利益累計額	3,809	5,190
非支配株主持分	3,352	3,378
純資産合計	117,653	122,376
負債純資産合計	194,456	192,623

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期 連結累計期間 2022年4月1日から 2022年9月30日まで	当第2四半期 連結累計期間 2023年4月1日から 2023年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,768	8,345
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 789	443
財務活動によるキャッシュ・フロー	785	△ 7,947
現金及び現金同等物に係る換算差額	76	31
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 3,695	873
現金及び現金同等物の期首残高	23,458	25,143
現金及び現金同等物の四半期末残高	19,763	26,016

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期 連結累計期間 2022年4月1日から 2022年9月30日まで	当第2四半期 連結累計期間 2023年4月1日から 2023年9月30日まで
売上高	75,984	82,306
売上原価	66,839	69,470
売上総利益	9,144	12,835
販売費及び一般管理費	5,225	5,518
営業利益	3,918	7,316
営業外収益	461	399
営業外費用	173	238
経常利益	4,207	7,477
特別利益	976	1,168
特別損失	47	51
税金等調整前四半期純利益	5,136	8,594
法人税等	1,629	2,590
四半期純利益	3,506	6,003
非支配株主に帰属する四半期純利益	80	147
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,426	5,855

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

会社概要および株式情報

(2023年9月30日現在)

Corporate Data & Stock Information

会社概要

社名	株式会社横河ブリッジホールディングス
所在地	〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目4番44号 TEL:03-3453-4111(代表)
資本金	9,435百万円
主な機能	経営戦略、法務・監査、経理・財務 総務・人事、IR・広報、技術研究開発

役員一覧 (2023年9月30日現在)

代表取締役社長	高田 和彦
取締役常務執行役員	宮本 英典
取締役常務執行役員	小林 明
取締役執行役員	吉田 昭仁
取締役執行役員	栗原 一也
取締役執行役員	中村 譲
取締役	黒本 和憲 (社外取締役)
取締役	天野 玲子 (社外取締役)
取締役	神野 秀磨 (社外取締役)
常勤監査役	廣川 亮吾
常勤監査役	大島 輝彦
監査役	志々目 昌史 (社外監査役)
監査役	吉川 智三 (社外監査役)
監査役	尾崎 聖治 (社外監査役)
専務執行役員	高木 清次
執行役員	梶 宏人
執行役員	湯川 雅之

株式の状況

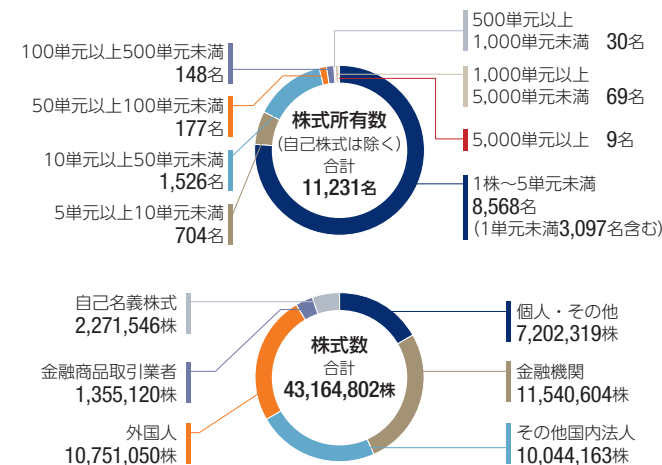
発行可能株式総数	180,000,000株
発行済株式総数	43,164,802株
株主数	11,232名

大株主 (上位10名)

株主名	所有株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	4,734	11.57
(株)日本カストディ銀行(信託口)	3,738	9.14
日本製鉄(株)	1,987	4.85
横河電機(株)	1,676	4.09
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	758	1.85
横河ブリッジホールディングス従業員持株会	723	1.76
住友不動産(株)	674	1.64
日本生命保険相互会社	543	1.32
NORTHERN TRUST CO.(AVFC)RE USL NON-TREATY CLIENTS ACCOUNT	508	1.24
住友生命保険相互会社	484	1.18

(注)1.当社は、自己株式を2,271,546株保有しておりますが、上記大株主からは除外してあります。
2.持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株式分布状況



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年3月31日
基準日	期末配当 毎年3月31日
	中間配当 毎年9月30日
定時株主総会	毎年6月
単元株式数	100株
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先	電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 受付時間 9:00～17:00 (土日休日を除く)
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL	https://www.ybhd.co.jp/



表紙の写真 レインボーブリッジ

所在地: 東京都港区海岸三丁目～
港区台場一丁目・江東区有明二丁目
形式: 3径間2ヒンジ補剛トラス吊橋

レインボーブリッジは、東京都心と臨海副都心をつなぐ吊橋で、東京のシンボリック的橋梁です。電車「ゆりかもめ」や車、徒歩とさまざまな手段で渡ることができ、海とお台場の景色を楽しめます。

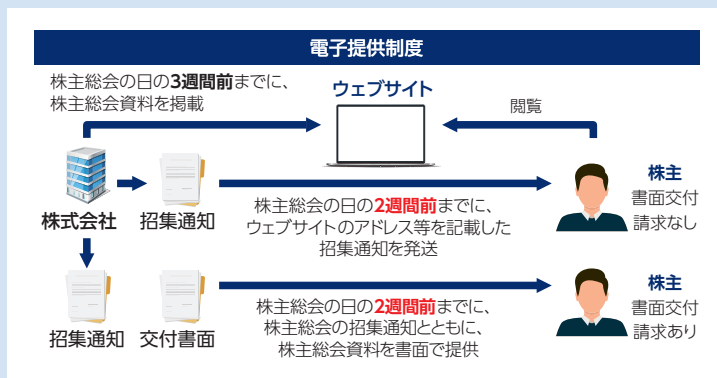
株式会社横河ブリッジが施工に携わり、1993年に完成したレインボーブリッジは、2023年8月に開通30周年を迎えました。通常の間夜間ライトアップは白色ですが、開通30周年記念イベントとして、2023年8月26日から27日の2日間限定で紅色にライトアップされました。

(写真提供: 首都高速道路株式会社)

電子提供制度について

改正会社法(2022年9月1日施行)により、株主総会資料の電子提供制度が開始されました。2023年6月の株主総会においては、制度導入初年度の対応として、これまでと同等の情報を書面でお送りしましたが、次回以降の株主総会から電子提供制度に即した方法でのご提供を検討しております。

次回以降の株主総会でも従来どおりの書面でのお受け取りを希望される株主様は、株主総会の基準日までに、お取引のある証券会社または株主名簿管理人を通じて書面交付請求のお手続きが必要となります。なお、すでにお手続き済の株主様は、重ねてお手続きいただく必要はございません。



株式会社 横河ブリッジホールディングス

〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目4番44号
TEL. 03-3453-4111 (代表) <https://www.ybhd.co.jp/>

